

「漢方薬の公的医療保険給付除外」に関する
医師・患者 意識調査

平成21年12月7日

株式会社QLife(キューライフ)

結論の概要

1) 患者の85.2%、医師の78.7%が漢方薬の公的医療保険給付除外に「反対」していることが明らかになった。

2) 87.9%の医師が、事業仕分け作業において「漢方薬の公的保険給付除外」について議論されていることを知っていることから、本作業に対する医師の関心の高さがうかがえる半面、「医療現場の実態が考慮されているか」という問いに対しては「全くされていない」(32.9%)と「ほとんどされていない」(37.2%)で、約7割を占め、議論の内容・進め方・判断については厳しく評価していることが明らかになった。

3) 患者は漢方薬の「必要性」について、21.3%が「必要不可欠である」と答え、「あったほうがよい」の63.0%と合わせると、84.3%の患者が「漢方薬は必要」と考えていることが明らかになった。

この背景には、漢方薬服用について「著しく効果がある(あった)」(5.0%)、「効果がある(あった)」(51.0%)と約6割の患者が有効性を実感していることがあると考えられる。

4) 「大半の医師は医療現場における漢方薬の有用性を実感し、公的医療保険給付除外による患者のQOL低下を危惧している」、「約7割の患者は医師による漢方薬処方が受けられなくなることに不安を抱いている」、といった医師・患者双方のインサイトも明らかになった。

【調査実施概要】

▼調査責任

株式会社QLife

▼実施概要

(1) 調査対象： 全国の一般成人男女（医師の処方による漢方薬の服用経験者）
 全国の医師（漢方薬を処方する内科医、外科医、産婦人科医、泌尿器科医、耳鼻咽喉科医、小児科医）

(2) 有効回収数： 一般成人男女（520名）
 医師（207名）

(3) 調査方法： インターネット調査

(4) 調査時期： 2009/12/1～2009/12/3

▼有効回答者の属性

(1)一般成人男女：

<性別>

男性	260
女性	260
全体	520

<年齢>

男性_20代	52
男性_30代	52
男性_40代	52
男性_50代	52
男性_60代以上	52
女性_20代	52
女性_30代	52
女性_40代	52
女性_50代	52
女性_60代以上	52
全体	520

<地域>

北海道	27
東北地方	29
関東地方	213
中部地方	91
近畿地方	80
中国地方	26
四国地方	9
九州地方	45
全体	520

<職業>

公務員	26
経営者・役員	16
会社員(事務系)	66
会社員(技術系)	59
会社員(その他)	54
自営業	37
自由業	9
専業主婦	122
パート・アルバイト	48
学生	21
その他	62
全体	520

(2)医師

<診療科>

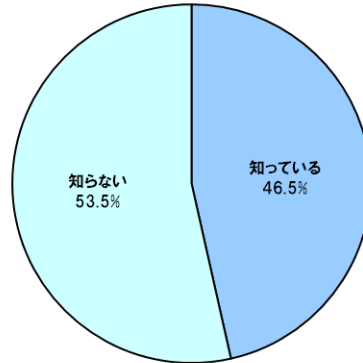
一般内科	41
一般外科	31
産婦人科	41
泌尿器科	31
耳鼻咽喉科	32
小児科	31
全体	207

【一般対象 調査結果の詳細】

スクリーニング設問は「医療用漢方製剤」の服用経験等を問う内容。
本調査では意図的に「漢方薬の服用経験者」による母集団を形成した。

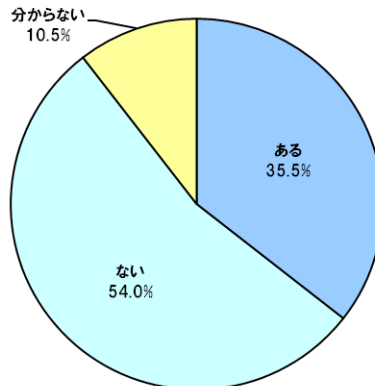
医療用漢方製剤への公的医療保険給付の認知

[Q1] あなたは、保険が適用される「漢方薬」(主として医療用漢方製剤を指す。以下「漢方薬」とする。)があることを知っていますか？
(n=10000)



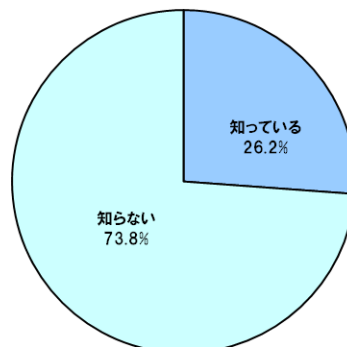
【属性確認】医療用漢方製剤の服用経験

[Q2] あなたは、医療機関で「漢方薬」を処方されて、服用したことはありますか？
(n=10000)



事業仕分け作業における医療用漢方製剤の医療保険給付除外に関する議論の認知

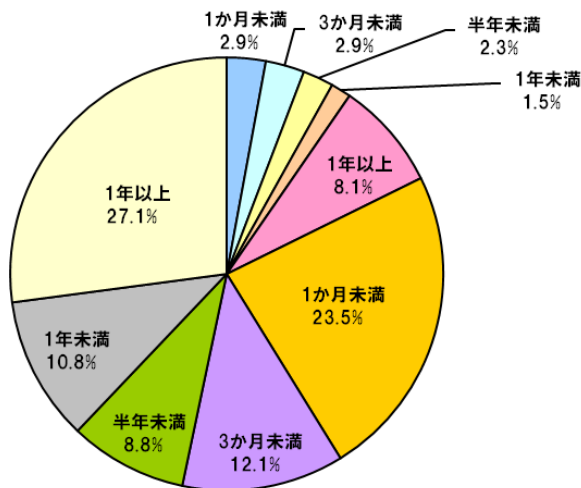
[Q3] あなたは、上記の議論がされたことを知っていますか？
(n=10000)



漢方薬の服用期間

「1ヶ月未満」(23.5%)と「1年以上」(27.1%)で大きく分かれる結果となった。処方理由となっている適応疾患(急性・慢性)が反映されていることが窺える。

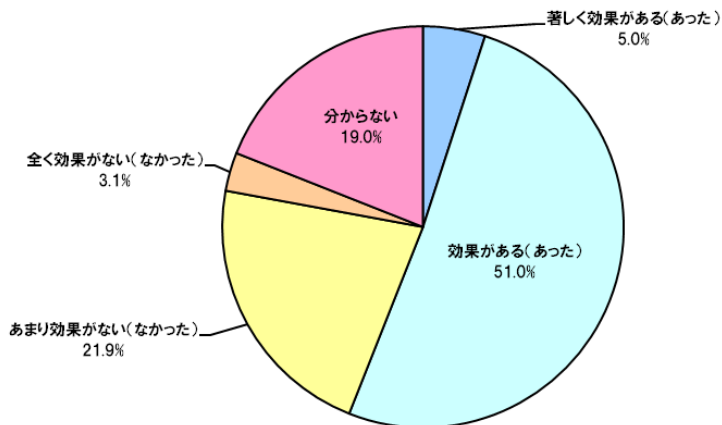
[Q1] あなたは現在漢方薬(医療用漢方製剤)を服用していますか。
 している場合は、どのくらいの期間服用しているかお答えください。
 現在服用されていない方は、直近で服用していた際に、どのくらいの期間服用していたかお答えください。
 ※漢方薬は、市販のものを除きます。
 (n=520)



漢方薬服用後の効果

「著しく効果があった」(5.0%)および「効果があった」(51.1%)を合わせ、全体の半数以上が一定の効果を実感している。

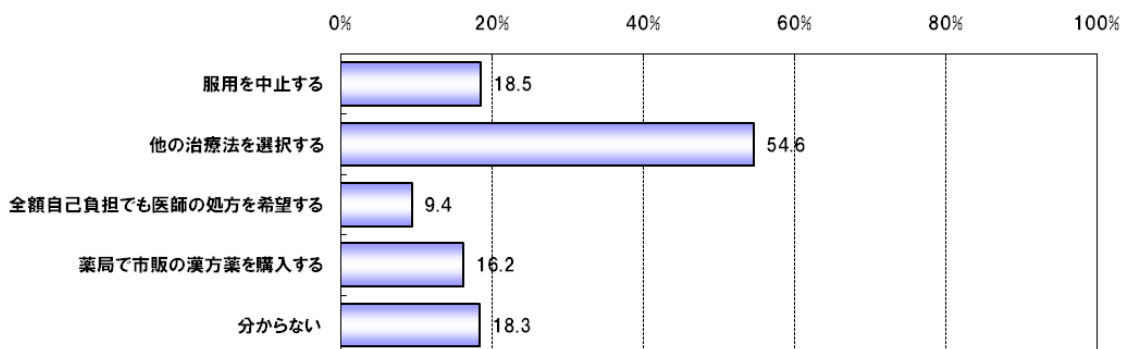
[Q2] 服用以前と比べて漢方薬(医療用漢方製剤)服用後の効果はありますか(ありましたか)。
 ※現在服用されていない方は、直近で服用されていた時期についてお答えください。
 (n=520)



漢方薬が公的医療保険の適用除外となった場合のアクション

全体の半数以上が、漢方薬以外の治療方法を選択すると回答した一方、全額自己負担で漢方薬の処方希望する患者は1割にも満たなかった。

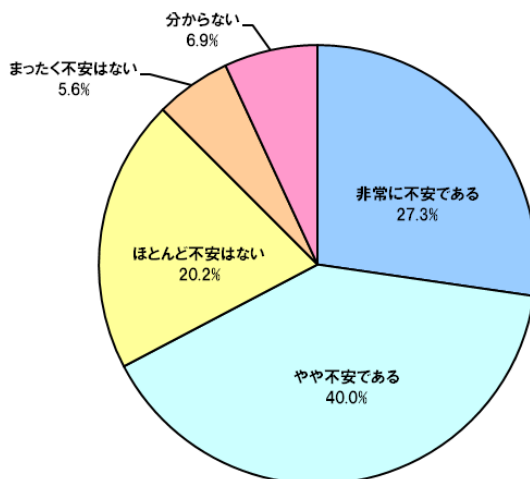
[Q3] 漢方薬(医療用漢方製剤)が保険給付除外となり、医師は処方できるが薬代が全額自己負担となった場合、その対処法としてあてはまるものを以下の中からすべてお選びください。
(n=520)



Q4. 漢方薬の処方が受けられなくなった場合の不安度

「非常に不安」(27.3%)と「やや不安」(40.0%)を合わせると、全体の約7割(67.3%)が、医療保険給付の除外を不安視していることが分かった。

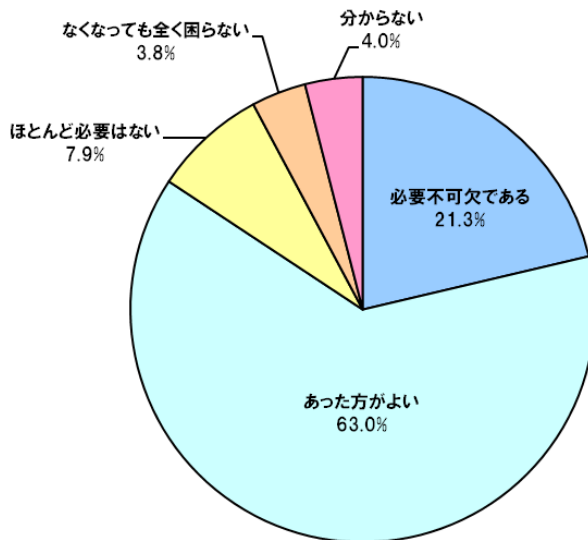
[Q4] あなたは、医師による漢方薬(医療用漢方製剤)の処方が受けられなくなった場合、不安に感じますか。
(n=520)



漢方薬の必要性

全体の21.3%は「必要不可欠である」と答え、「あった方がよい」の63.0%と合わせると、84.3%の患者が「漢方薬は必要」と考えていることが明らかになった。漢方薬服用について「著しく効果がある(あった)」(5.0%)、「効果がある(あった)」(51.0%)と約6割の患者が有効性を実感していることが背景になっているとも考えられる。

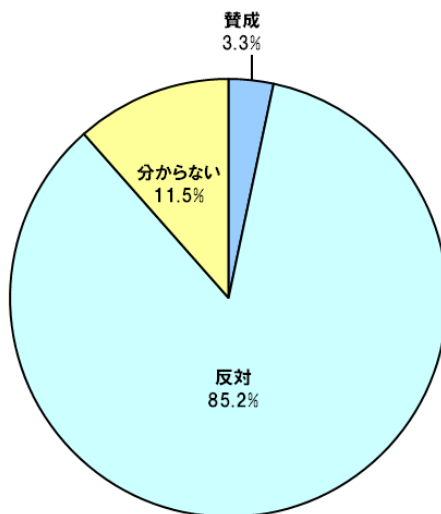
[Q5] あなたにとって漢方薬(医療用漢方製剤)は必要であると思いますか。
(n=520)



漢方薬の医療保険除外についての賛否

全体の85.2%が「反対」と答えており、事業仕分け作業の内容、進め方、判断に対する厳しい見方が大勢を占めている。

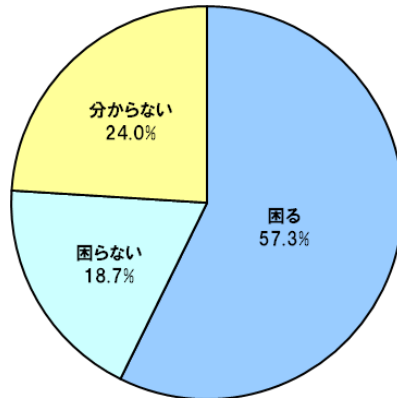
[Q6] あなたは漢方薬(医療用漢方製剤)の医療保険給付除外について、賛成ですか。
(n=520)



漢方薬が医療保険給付除外となった場合の反応

全体の半数以上(57.3%)が「困る」と回答している。医療現場における漢方薬の位置づけが高まりつつあることによる影響であると考えられる、

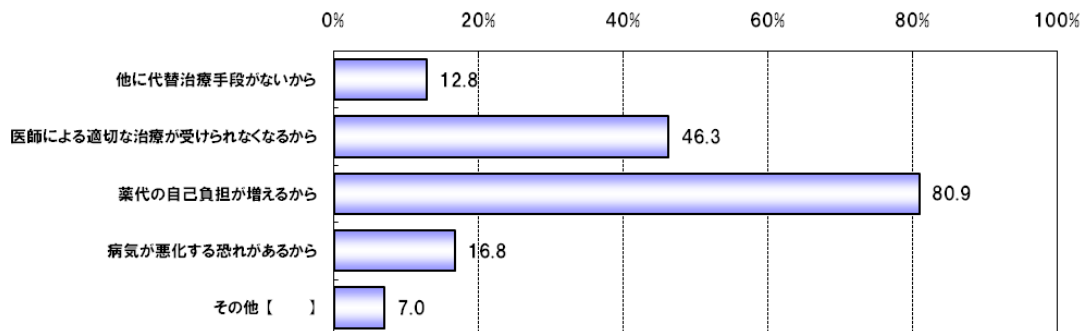
[Q7] あなたは、もし漢方薬(医療用漢方製剤)が医療保険給付除外になった場合、困りますか。
(n=520)



漢方薬が医療保険給付除外となった場合に困る理由

前問で「困る」と回答した患者にその理由をきいたところ、「薬代の自己負担増」が圧倒的に多い(80.9%)ほか、「医師から処方を受けられなくなる」ことを理由としている患者も約半数(46.3%)近くに上った。

[Q8] 前問で「漢方薬(医療用漢方製剤)が医療保険給付除外になった場合、困る」とお答えの方にお聞きします。漢方薬が医療保険給付除外になったらなぜ困りますか。以下の中からあてはまるものをすべてお選びください
(n=298)

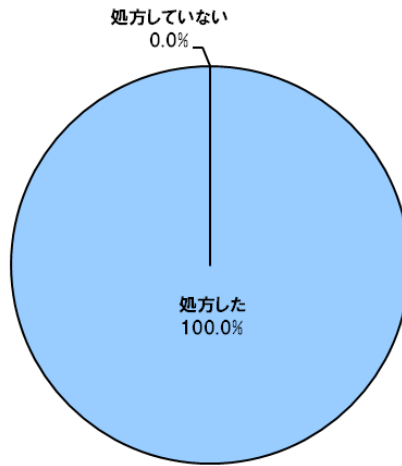


【医師対象 調査結果の詳細】

スクリーニング設問は「医療用漢方製剤の処方経験」等を問う内容。
本調査では意図的に「漢方薬を処方する医師」による母集団を形成した。

【属性確認】漢方薬の処方状況

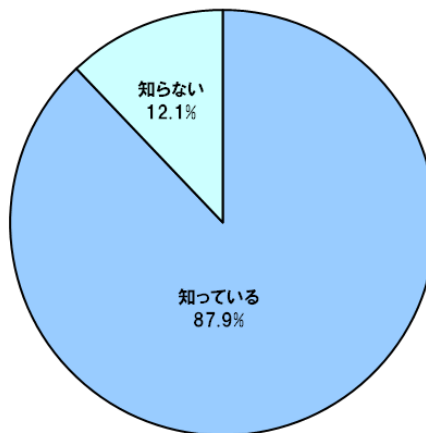
[Q1] 先生は、臨床において漢方薬を過去1ヶ月以内に処方しましたか？
(他剤との併用処方を含むものとします)
※漢方薬とは、主として医療用漢方製剤を指します。以降の設問でも同様です。
(n=207)



事業仕分け作業における医療用漢方製剤の医療保険給付除外に関する議論の認知

医療現場で治療に使用していることから、約9割の医師が認知している一方、依然として約1割の医師が「知らない」と回答しており、医療従事者ならびに国民への周知・浸透が不十分である一面も窺える結果となった。

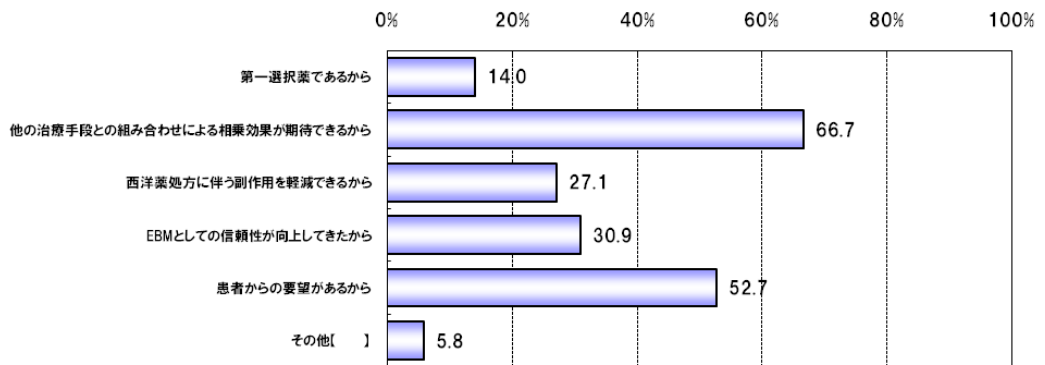
[Q2] 先生は、上記のように『漢方薬への公的医療保険給付が外される可能性がある』という事を、ご存知ですか。
(n=207)



漢方薬の処方理由

医師に対して漢方薬の処方理由を質問したところ、「他の治療手段との組み合わせによる相乗効果を期待できるから」(66.7%)が最も多く、「患者からの要望があるから」(52.7%)、「EBM(Evidence Based Medicine:科学的根拠に基づく医療)からみた信頼性が向上してきたから」(30.9%)、「西洋薬処方に伴う副作用を軽減できるから」(27.1%)が続いており、医療現場において幅広く使用されていることが示唆された。

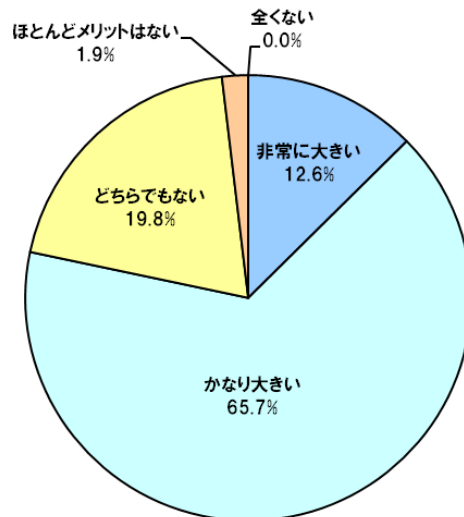
[Q4] 先生が漢方薬を処方する理由について、あてはまるものを全てお選びください。
(n=207)



漢方薬がもたらす治療上のメリットの評価

漢方薬が患者の治療にもたらすメリットについては、「非常に大きい」(12.6%)、「かなり大きい」(65.7%)と約8割の医師がポジティブに評価している。

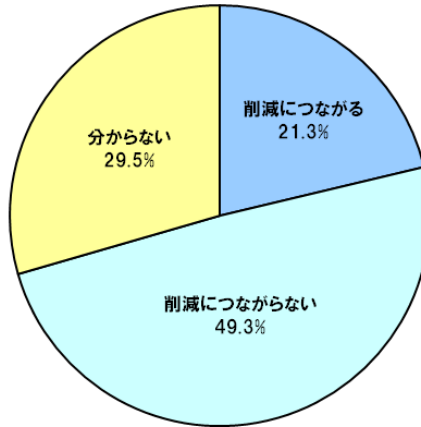
[Q5] 漢方薬の処方が患者さんの治療にもたらすメリットについて、どう思われますか。
(n=207)



漢方薬を医療保険給付除外とした場合の医療費削減効果

約半数(49.3%)の医師が医療費削減効果を疑問視している一方、削減につながると思う医師も2割存在する。

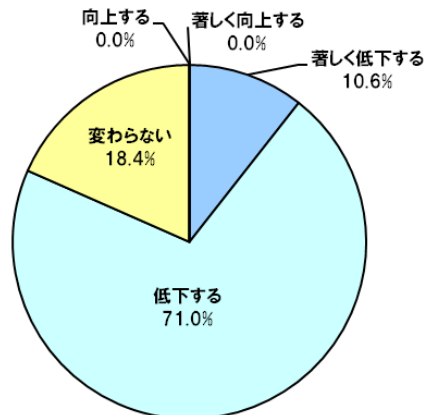
[Q7] 漢方薬が医療保険給付除外となった場合、国の医療費の削減につながるといいますか？
(n=207)



漢方薬が医療保険給付除外となった場合の患者QOLの変化

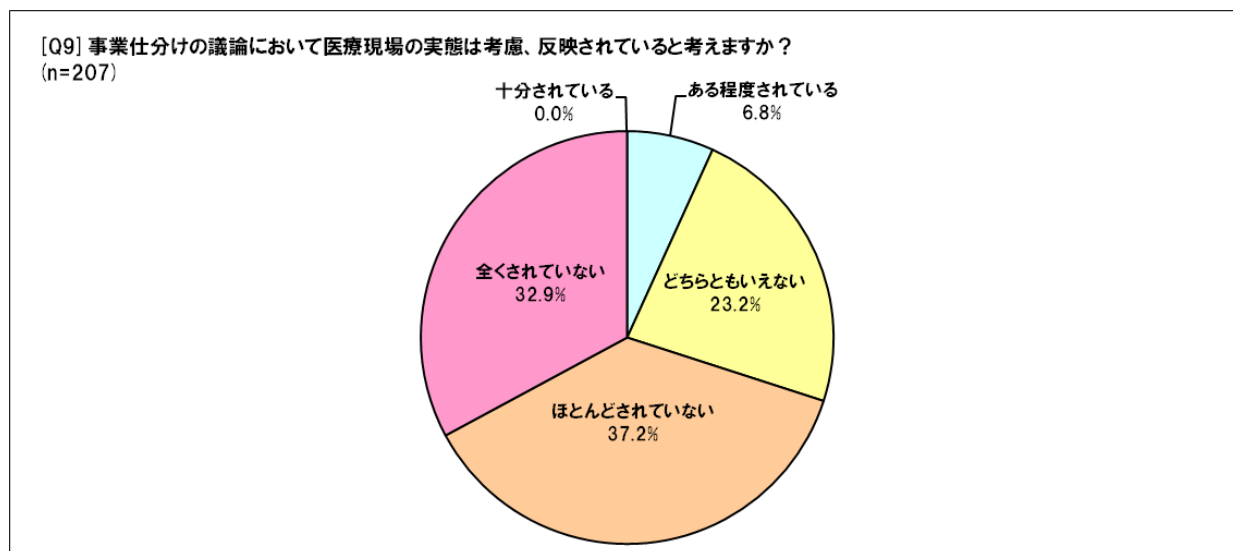
「著しく低下する」と「低下する」を合わせると約8割(81.6%)の医師が患者への悪影響を危惧している。

[Q8] 漢方薬の医療保険給付が除外となった場合、患者さんのQOLはどのように変化するといいますか？
(n=207)



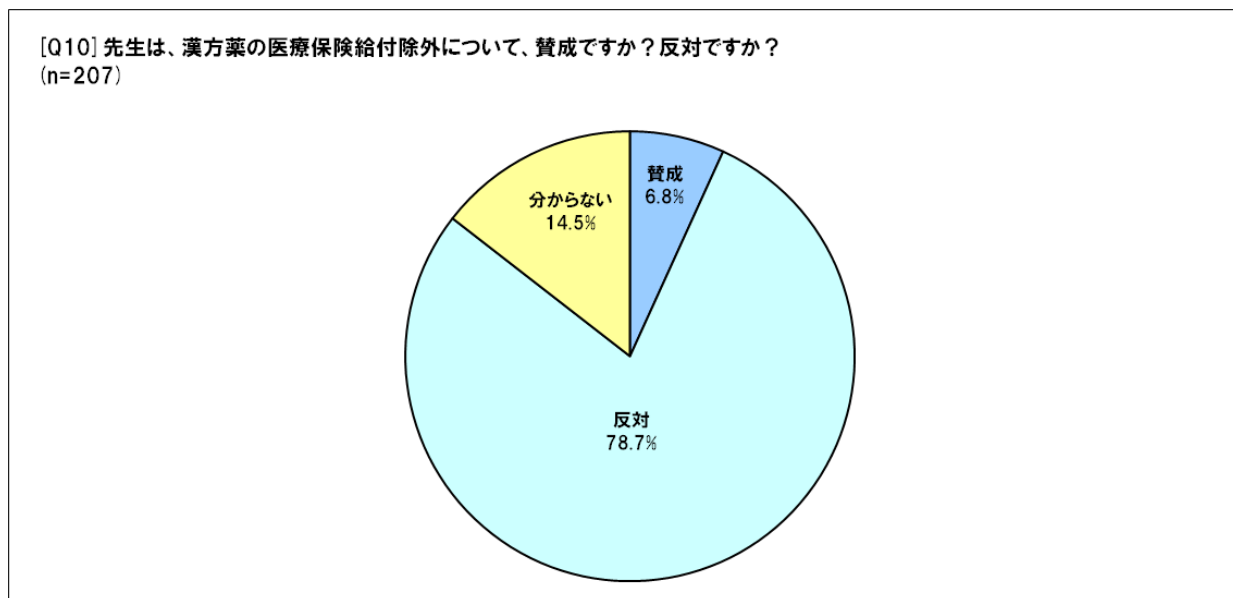
行政刷新会議による事業仕分け作業に対する評価

「全くされていない」と「ほとんどされていない」を合わせると約7割(70.1%)の医師が事業仕分けの進め方に対して厳しい見方を示している。



漢方薬の医療保険給付除外に対する賛否

約8割(78.7%)の医師が反対の意思を表明している。



以上

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 山内善行

TEL : 03-5433-3161 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-7-2 リングリングビルA棟6F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 生活者と医療機関の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>
